

道東太平洋沖の流速場（2017年10月 海況速報No.178 付記）

2017/10/23

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。（水温観測結果は「北辰丸」および、函館水産試験場所属「金星丸」の結果を使用しています。）

親潮：親潮の本流（O1：20～40cm/s程度（100m深流速））は根室沖(岸から30～40km)を南西に岸に沿って流れており、襟裳岬付近まで到達しています（図1）。勢力は根室沖で南西向きの流れがほとんど見られなかった昨年（2016年）に比べると強めです（図1、2）。

暖水：親潮の南側に例年よりも2～4℃高い暖水が分布しており、暖水の縁には時計回りの強い流れ（W1：40～60cm/s程度（100m深流速））が見られます（図1、2）。

今後の見通し：現在、親潮は根室沖から襟裳岬付近まで順調に流れており、暖水の影響は沿岸には達していません。しかし、一般的に親潮の勢力は11～12月に一年で最も弱まるとされており、今後さらに勢力が弱まれば暖水がさらに北上する可能性もあります。今後の水温変化にご注意ください。

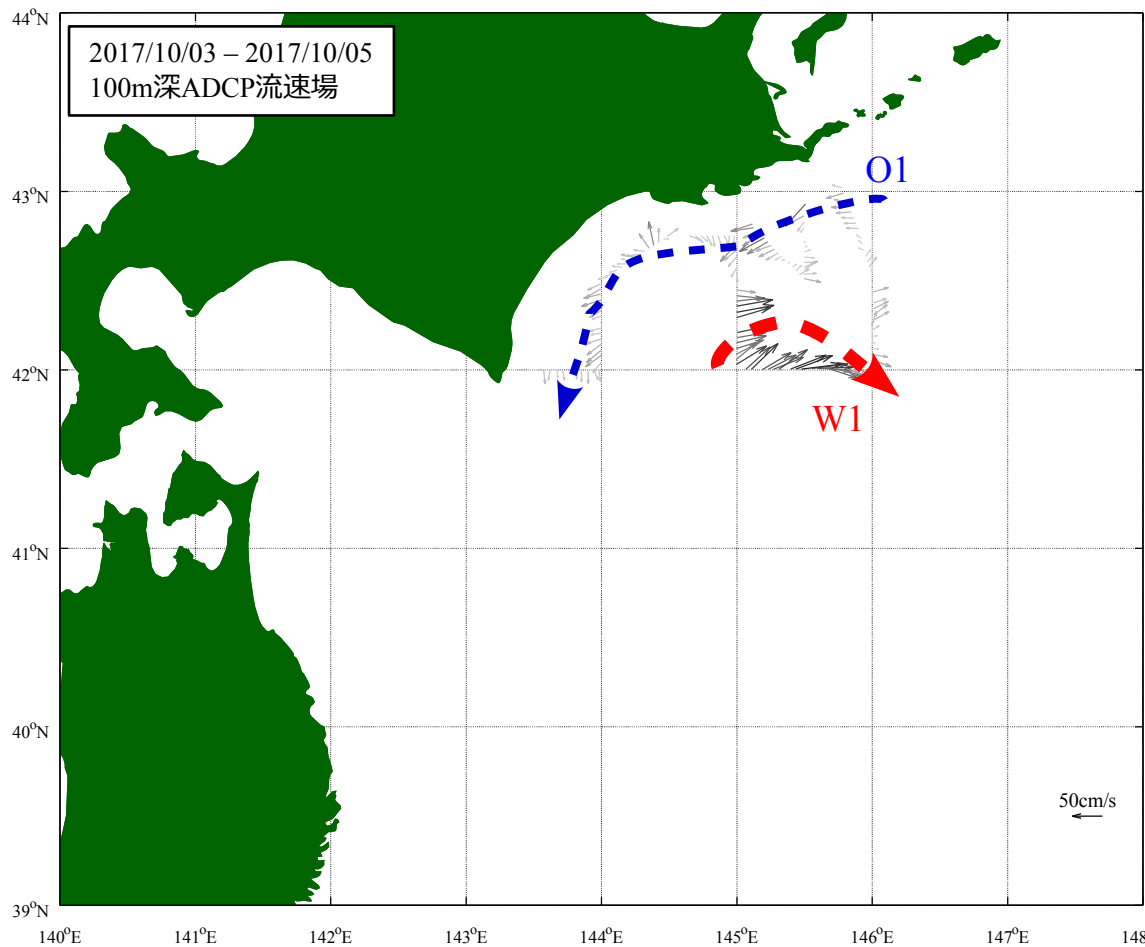


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さや色の濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮（青）と暖水（赤）の流れの模式図

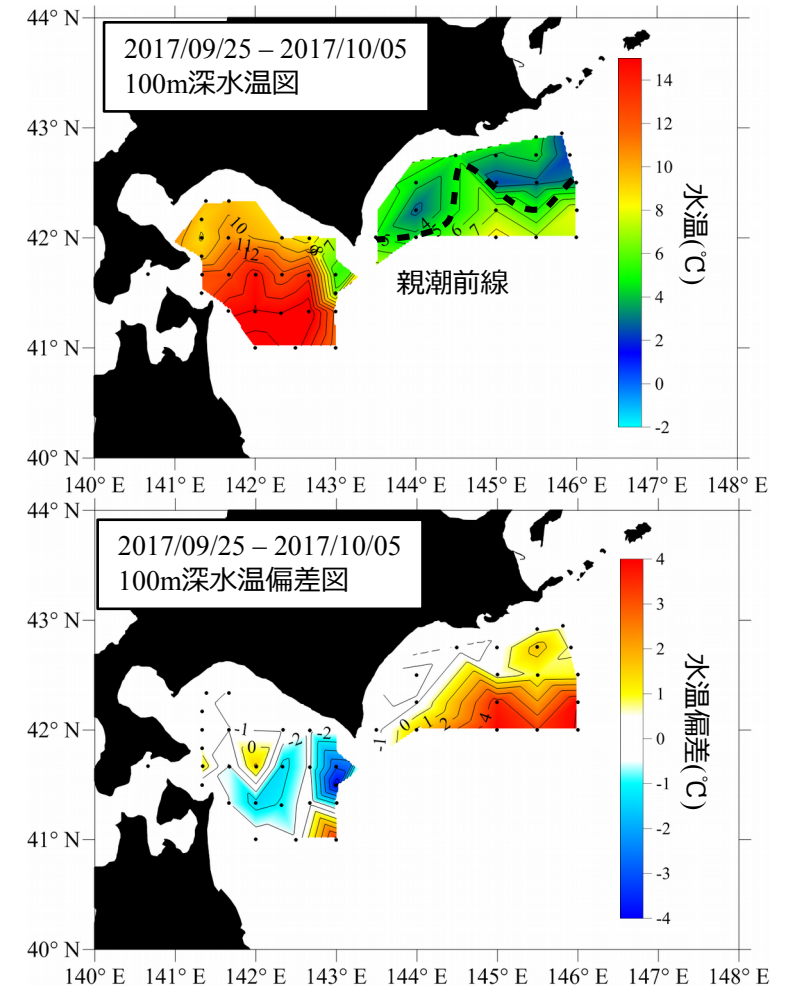


図2（上）100m深水温図
（下）100m深水温偏差図（1989～2008年平均からの差）